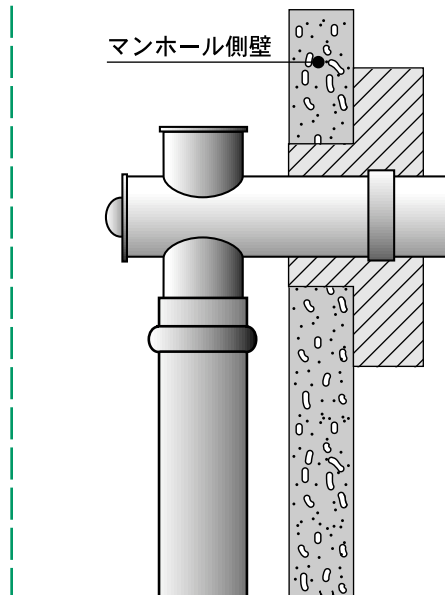
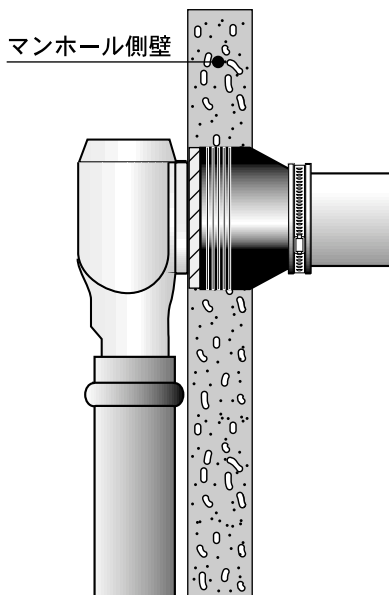


[従来の内副管とインサイド・ドロップ^{PAT.P}との比較]

インサイド・ドロップ^{PAT.P}

従来型



(特徴)

- ①省スペース化、
1号マンホールに取付可能
- ②耐震設計に対応

品番	タイプ	マンホール	流入管径 (mm)	最大流入削孔径 (mm)	垂直管
ID150R	(右)	1号、2号	150	262	VU100 又は VU150
ID150L	(左)				
ID200R	(右)	1号、2号	200	314	VU150 又は VU200
ID200L	(左)				

(施工性) *工期短縮・コスト削減

- ①熟練度を必要としない
 - ドロップポウルはアンカーボルト3本でマンホールの内壁に取付ける。
 - 取付けの際、ブチルシールも利用して止水効果もあり。
- ②流入管との接続は不要
 - 流入管口に合わせてドロップポウルを取付ける。
 - 流入管は従来通りの施工。(可とう継手ブーツによる施工)
- ③施工時期
 - ドロップポウル、垂直管の施工はインバート施工完了後にも取付けることが可能。



*垂直管(塩ビ)はゴム輪受口を使用してください。
*流入管の勾配は最大200%まで対応可能です。
*1号、2号マンホール以外のご相談ください。
*流入管がVU250以上の場合にご相談ください。

(維持管理) *メンテナンスが簡単
開口断面の為、点検が目視で確認できる。

(耐震性) *耐震レベル2に対応

- ①従来工法のようなコンクリート巻きたてが不必要
- ②流入管・流出管とも可とう継手ブーツ施工により耐震性を有する

(使用箇所) 新設:外副管及びマンホール内で汚水が飛散する流入口。急勾配の管路。
既設:副管(内・外)のやり替え工事。